

# りんご「早生ふじ」と「北紅」に対する摘果剤の効果

地方独立行政法人 青森県産業技術センター りんご研究所

りんごの摘果作業は手作業が中心であり、非常に労力がかかっています。摘果剤のNAC水和剤(ミクロデナポン水和剤85)を使用することで大幅な省力が可能ですが、品種によっては中心果まで落ちてしまうことから、品種ごとに効果を確認する必要があります。今回、「早生ふじ」と「北紅」に対する散布の効果と影響を明らかにしたので紹介します。

## 早生ふじ

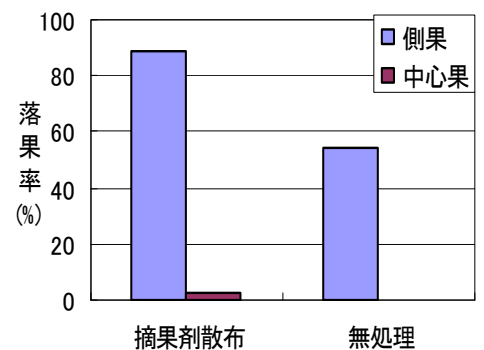
「ふじ」の満開後2週間ころの散布で、散布後20日ほどで「ふじ」と同様の摘果効果が認められ、ミクロデナポン水和剤85は「早生ふじ」に対して、摘果剤として使用できることがわかりました。



散布直後の結実状況



散布20日後の結実状況  
(中心果だけ残り、側果は落果)



「早生ふじ」の累積落果率

## 北紅

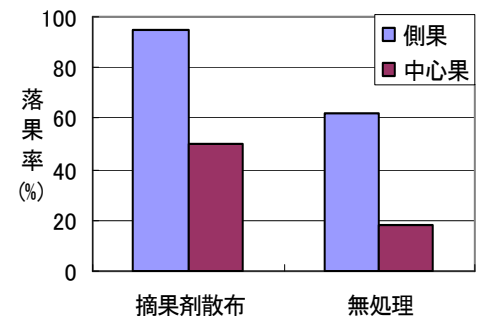
「ふじ」の満開後2週間ころの散布、満開後3週間ころの散布のいずれにおいても、散布20~30日後にかけて、側果、中心果ともに激しく落果するため、ミクロデナポン水和剤85は「北紅」に対して、摘果剤として使用できないことがわかりました。



散布直後の結実状況



散布20日後の結実状況  
(すべて落果)



「北紅」の累積落果率

ミクロデナポン水和剤85の摘果剤としての使用は、満開後2~3週間ころの1回散布となっているため、使用基準を守って下さい。

## お問い合わせ

りんご研究所育種部まで (Tel0172-53-6131)